



つちや ななせ ちゃん
(5さい)

サッカーが とくい。おにいちゃんにも かてるよ。サッカーせんしゅに なりたいから しょうがつこうに いったら サッカーチームに はいるの。



おひさま保育園のおともだち



すずき そらくん
(5さい)

バスの うんてんしゅに なりたいな。くるまは なんでも すきだけど バスが いちばん すき。かつこいい うんてんしゅに なるから みんな のつてね。

がんばっているあなたがすぎ

シリーズ・ひと

強い気持ちがあれば、結果がついてくる
ということを教えてあげたい
町内でのバトントワリングの普及を目指す

渡辺 伊織さん(22歳・弟子屈原野)



小学校・中学校・高校時代を通じてバトントワリング(以下バトン)の全国大会で活躍し、同競技の名門・立命館大学に進学。部長として全国の舞台にももちろん、世界選手権大会入賞にも貢献してきたのが渡辺さんです。
14歳のときに母に連れられていった教室で、バトンを習い始めました。初めはわけも分らないまま、練習に通っていった。経験を重ね、仲間と一緒にいろいろな大会に出場するようになる。うれしさも悔しさも含めて達成感を味わえることを知り、また大会に出たいと思うようになりました。
苦労したことはありませんか。
「どんな小さなことでも、こつこつ続けることが難しかったです。積み重ねあつての「今」なので。一つの作品に向けて長期間、毎日練習して、その成果を本番で出し切つて決めなければなりません。そのため、毎日いかに本番と同じような緊張感を持つて、本番どおりの心境で練習に臨めるか、メンタル面を鍛えることが課題でした。
渡辺さんにとってバトンはどんな存在なのでしょう。
「バトンしかしてきませんでしたし、バトンと共に歩んできたので、人生そのものですね。バトンを通じて、技術面や精神面はもちろんですが、社会性や

人として大切なことなども学ばせてもらいました。
この春、大学を卒業し、弟子屈に戻りました。
「一番強いチームでバトンをしたかったため、立命館進学について迷いはありませんでした。小さな町から出ていくので覚悟は必要でしたが、全国からトップレベルの選手が集まる中、学び多き日々でした。そんな中、これまでの経験も含めて、私を得られたものを弟子屈の子どもたちにも伝えたいと思うようになりました。以前から頭の片隅にはあつたことなのですが、最後の最後に今後の道として明確に意識しました。これからの抱負をお聞かせください。
「弟子屈でバトンスタジオをつくり、子どもたちの指導に当たりたいと思っています。どんなに恵まれた環境があつたとしても、そうでなくても、自分ほかなりたいという強い気持ちがあれば、結果がついてくるということを教えてあげたい。それは、私自身が学んできたことなので。そういう強い気持ちを持つた選手の手助けを、私はしていきたいです。また、多くの人にバトンの魅力に触れてもらい、バトンの普及を通じて、弟子屈の活性化に貢献できたらうれしいです。」



弟子屈 生!ハム会
団長・大崎 祐介さん
会員・23人



弟子屈 生!ハム会の皆さん

弟子屈 生!ハム会は2007年設立。プロ野球北海道日本ハムファイターズの私設応援団です。ライブ(生)で日ハムを応援しようというのが会



試合をテレビ観戦しながら応援

も、大使の活動に協力していきたい」と話していました。
会員以外でも、日ハムファンであればどなたでも試合観戦ができるそうですので、興味のある方は、喫茶あい ☎482-4889 8までどうぞ。